

お知らせ:次回発信日は3月14日週報(予定)

Jミルクが2024年1月26日に公表した「需給見通し(※2023年11月迄実績)」の予測値と実績(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・1月の生乳需給実績について、飲用等向はこれまでの傾向と同様に前年を下回り前年同期比▲1.6%となった。一方、生乳供給量は前月から減少幅が縮小して▲0.7%となったため、乳製品向は+0.3%と増加に転じた。乳製品向が前年を上回るのは2022年7月以来となる。全国指定団体受託乳量(速報)では、生産抑制の効果により前年下期から生産量が大きく減少した反動や今年度の粗飼料の出来等によって、2月中旬(最新)は全国で+0.1%と増加に転じた。特に、北海道(ホクレン)では上昇率を増加させ2月下旬には+0.8%となった。

・脱脂粉乳の需給をめぐっては、出回り量が減少したことで1月の在庫量は前月から約2千t増加したが、前年同期比では▲36%となった。バターも出回り量が減少し、在庫量が前月から約2千t増加し、前年同期比では▲29%となった。インテージによると、12月の取引乳価引き上げに伴うバターなどの製品価格改定は2月中旬ごろをピークに落ち着いたものの、販売個数は例年より低迷している。能登半島地震の影響などで訪日外国人観光客数の回復は鈍化したが、春休みには国内旅行者の増加などが見込まれるため、業務用需要などの増加が期待される。

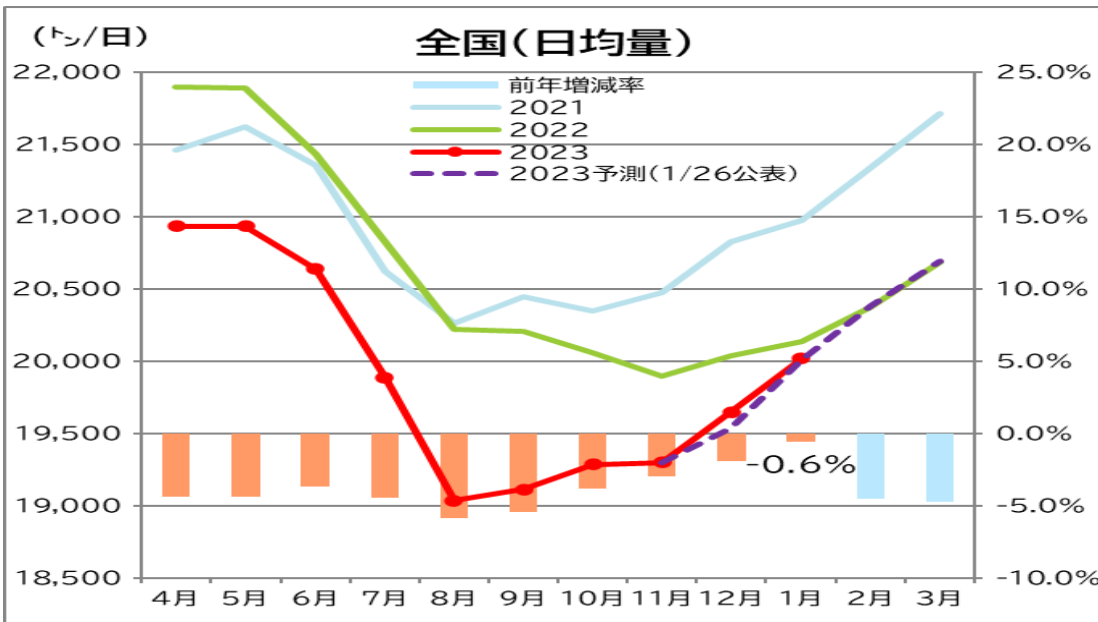
・牛乳類の販売動向に目を向けると、2月は天候の変化などを背景に消費が乱高下した。牛乳の販売個数は2/5週は前年比▲5.1%となった一方、2/12週は+0.3%となったが、2月全体では、ほぼ前年並みで着地した。例年、春休み期間やゴールデンウィークに生乳需給は緩和傾向となる。工場の稼働や生乳輸送に不測の事態が生じた場合、処理不可能乳が発生する事態を防ぐことを踏まえ、酪農乳業界は一丸となって消費拡大対策や配乳調整に取り組む必要がある。

・なお、世界的に関心が高まっているA2ミルクは、日本でも動きが活発化している。インテージによると、一カ月の販売本数が昨年11月から今年2月で15倍以上に増加した製品もあるため、今後も販売動向が注目される。

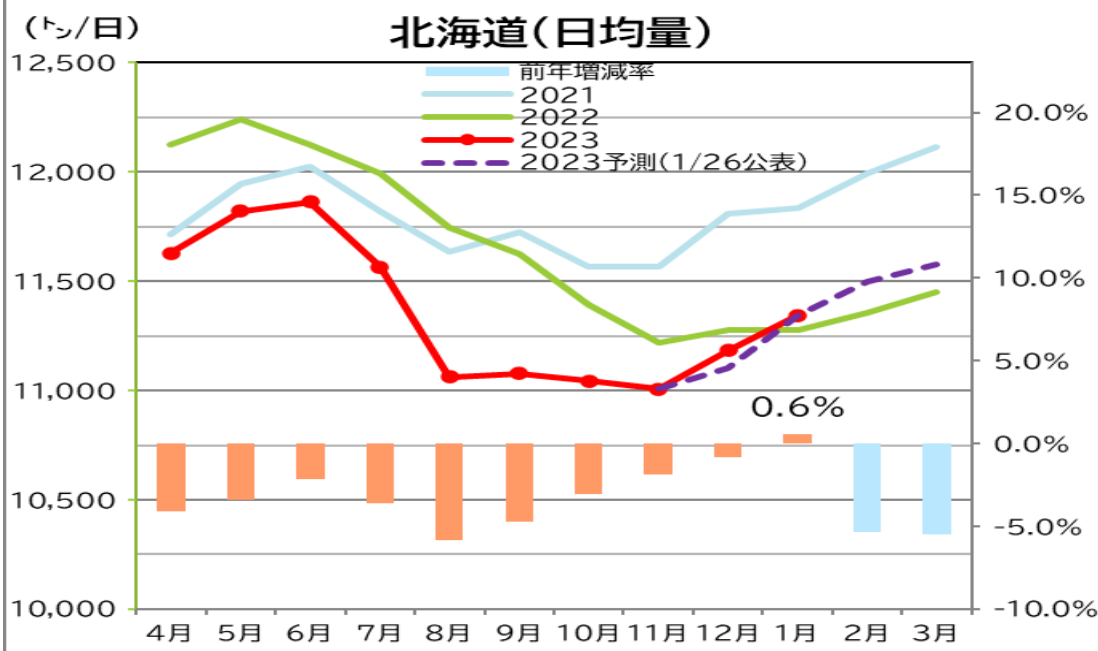
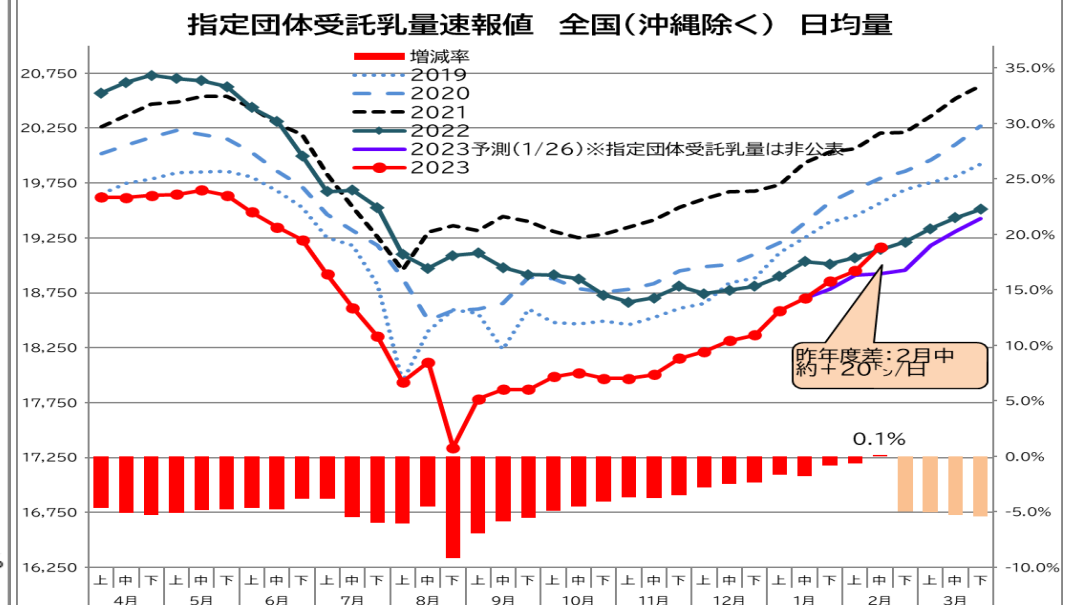
【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)1月の生乳生産量は、全国620.6千t(前年同月比99.4%)、北海道351.7千t(同100.6%)、都府県268.9千t(同97.9%)。

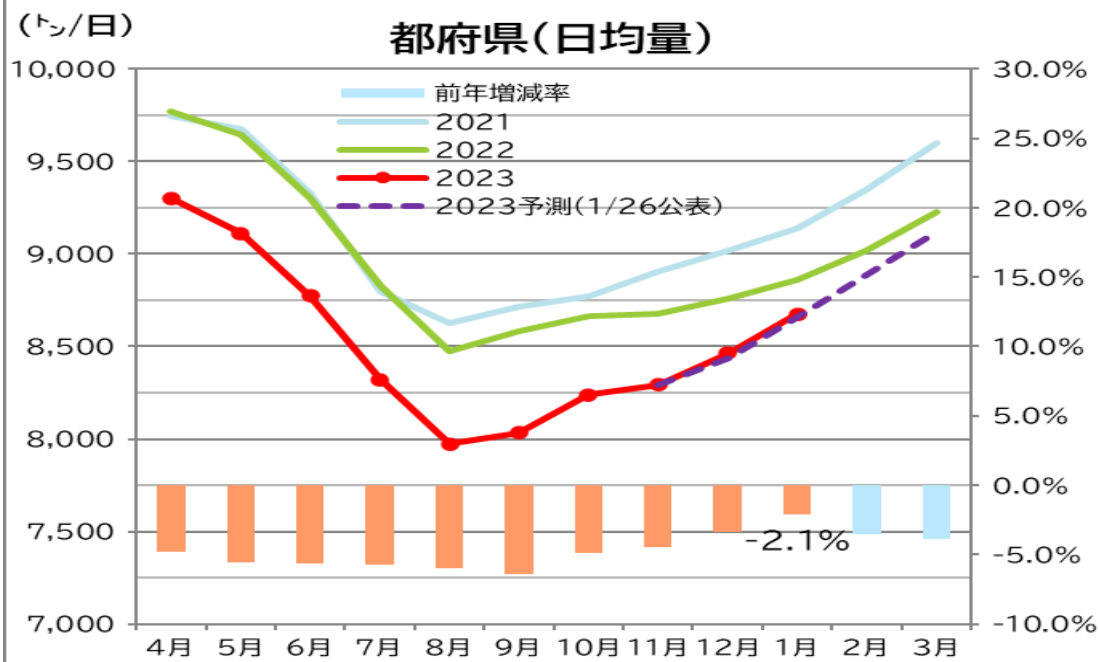
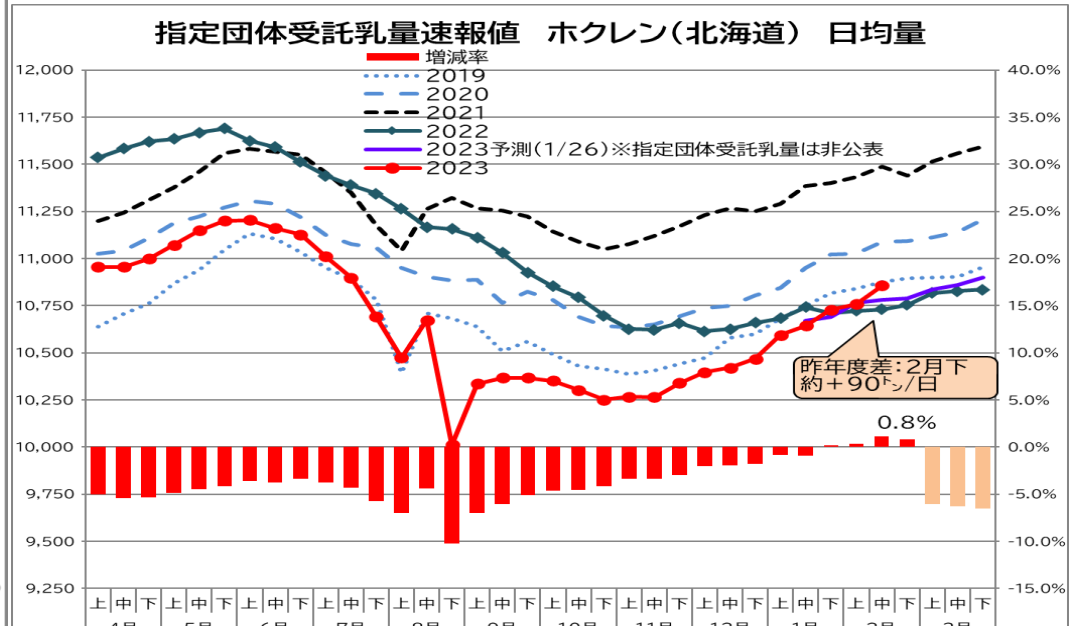
(2)Jミルク予測値(全国620.2千t、北海道351.8千t、都府県268.5千t)との比較は北海道がほぼ同水準、都府県がやや上振れしたことで全国でもやや上振れとなった。



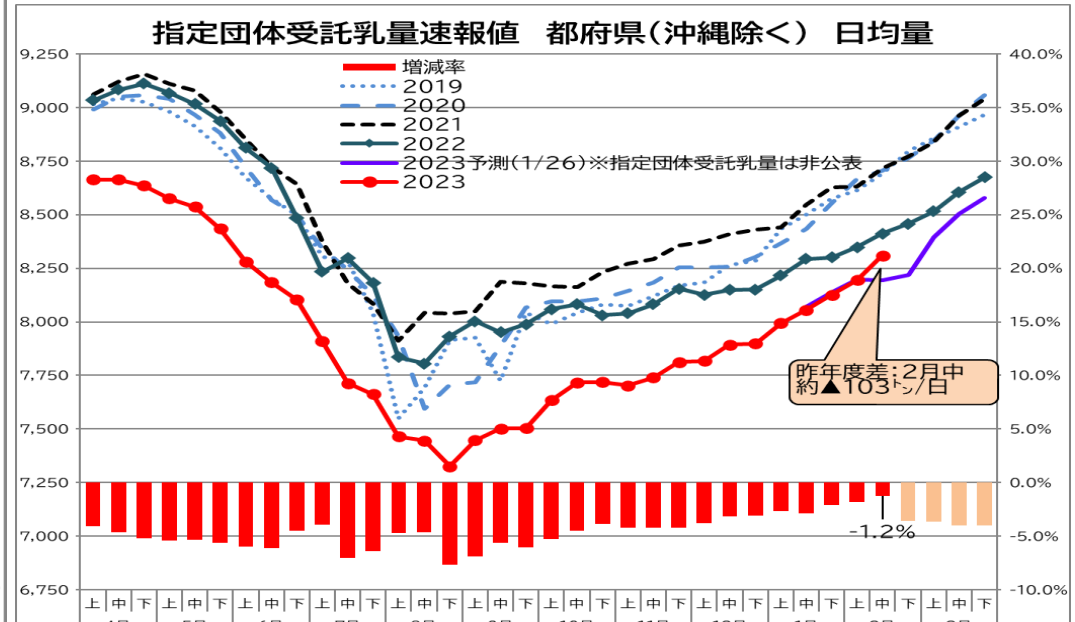
指定団体受託乳量速報値 全国(沖縄除く)※2月中旬



指定団体受託乳量速報値 ホクレン※2月下旬



指定団体受託乳量速報値 都府県(沖縄除く)※2月中旬

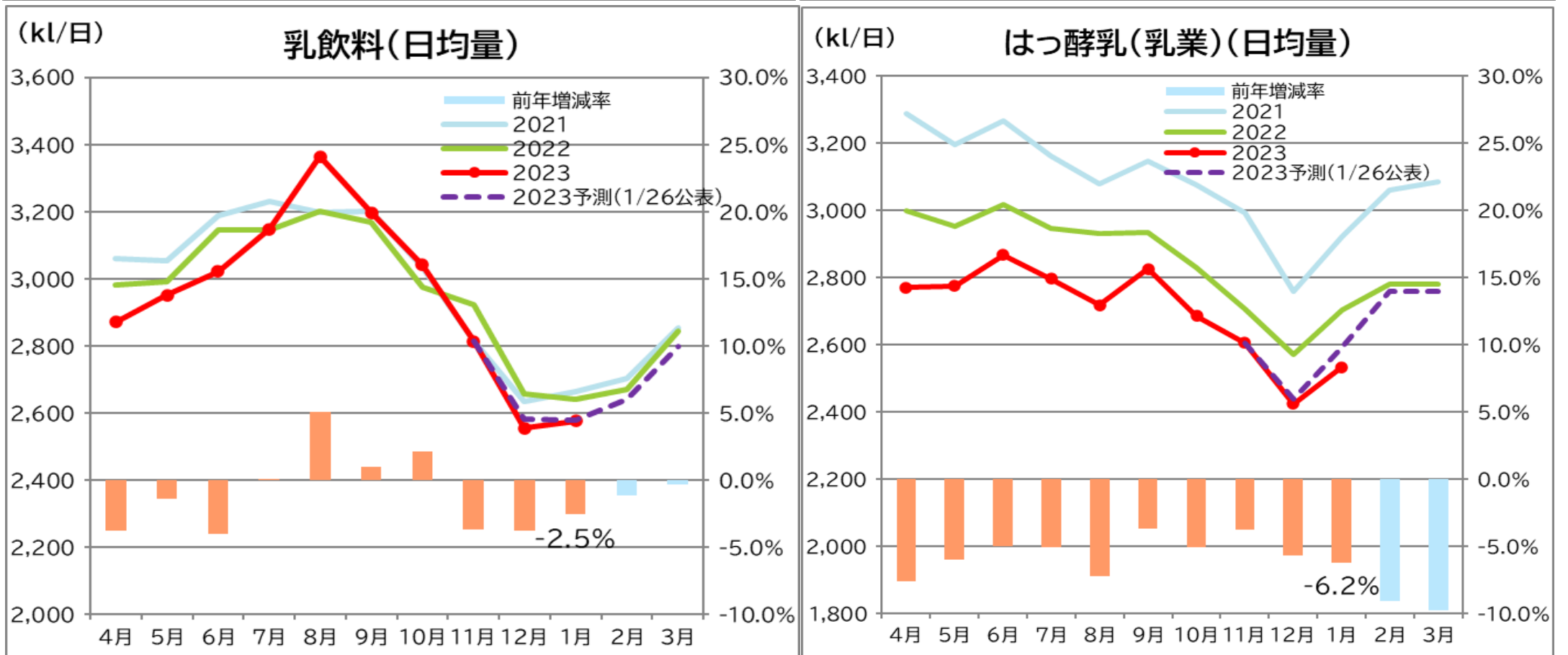
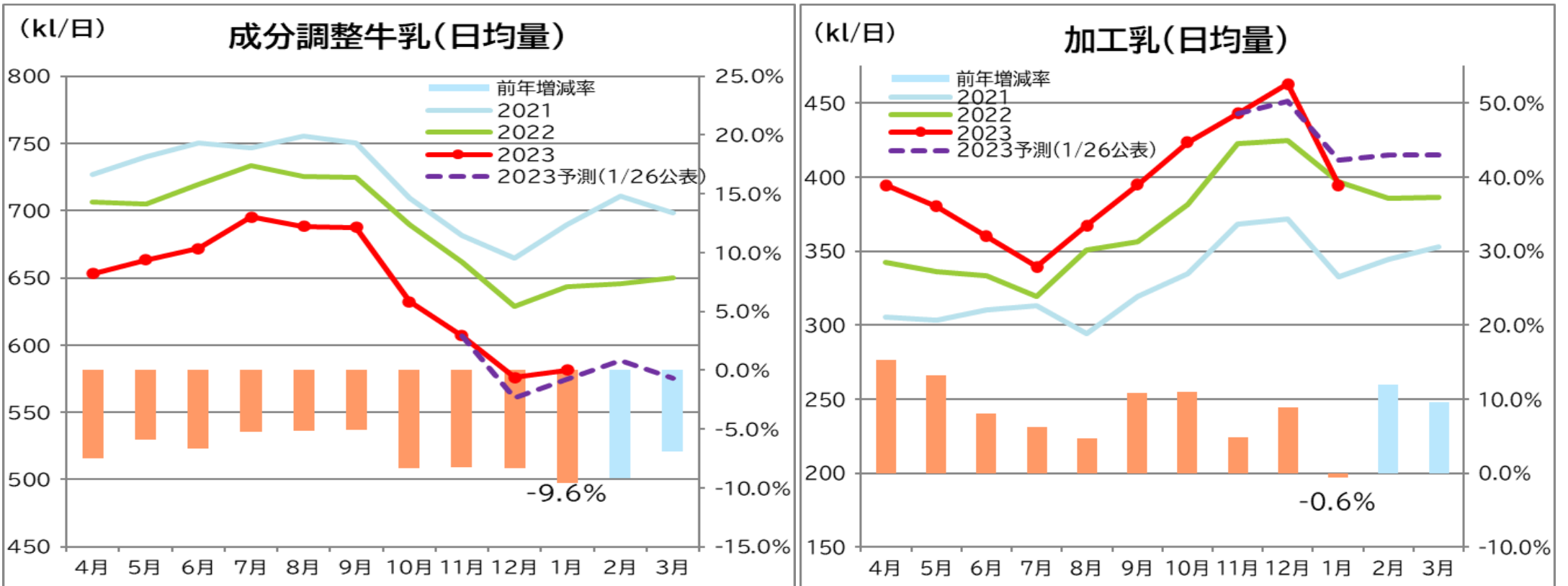
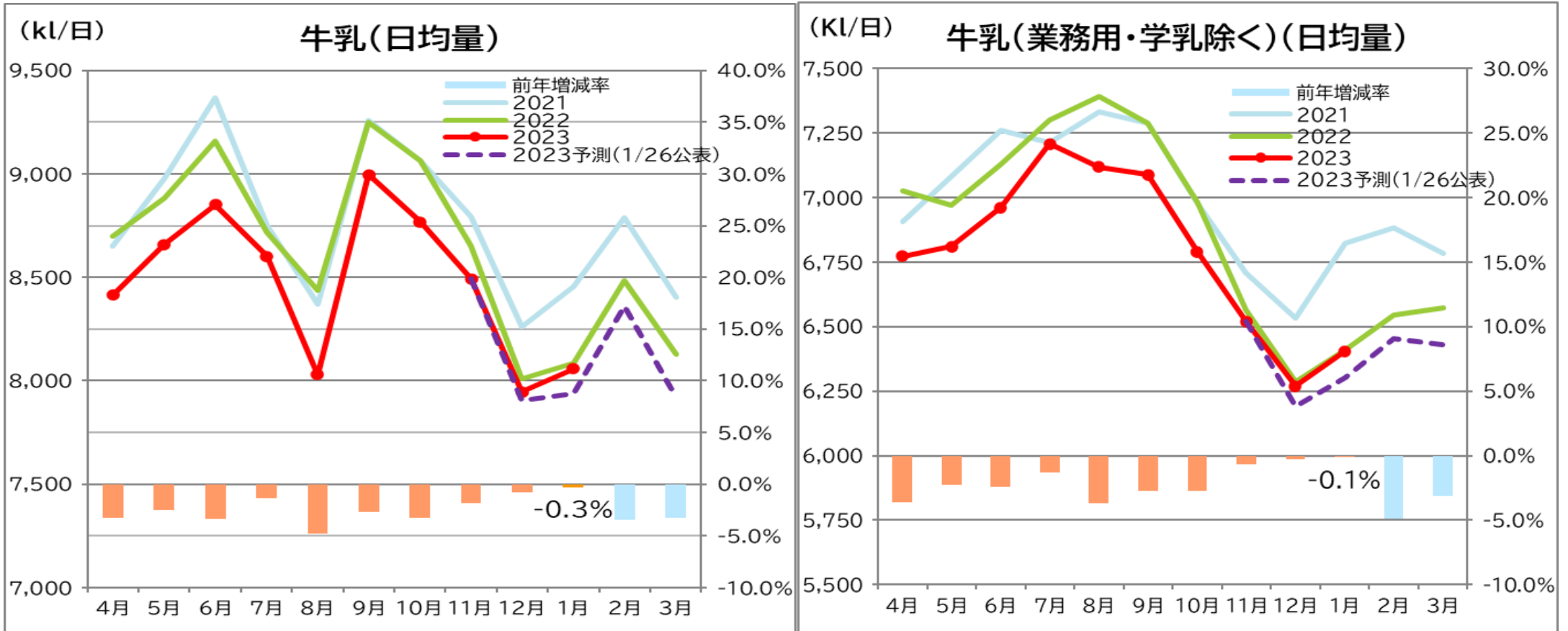


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)1月の牛乳等生産量は、牛乳249.8千kl(前年同月比99.7%)、成分調整牛乳18.0千kl(同90.4%)、加工乳12.2千kl(同99.4%)、乳飲料79.9千kl(同97.5%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、359.9千kl(同98.7%)となり、14カ月連続で前年を下回っている。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同99.9%、「業務用」は同94.2%、「学乳」は102.4%。

(3)はっ酵乳(乳業)は78.6千kl(同93.8%)と前年を大きく下回って推移している。はっ酵乳(非乳業:12月実績)は102.0%となった。

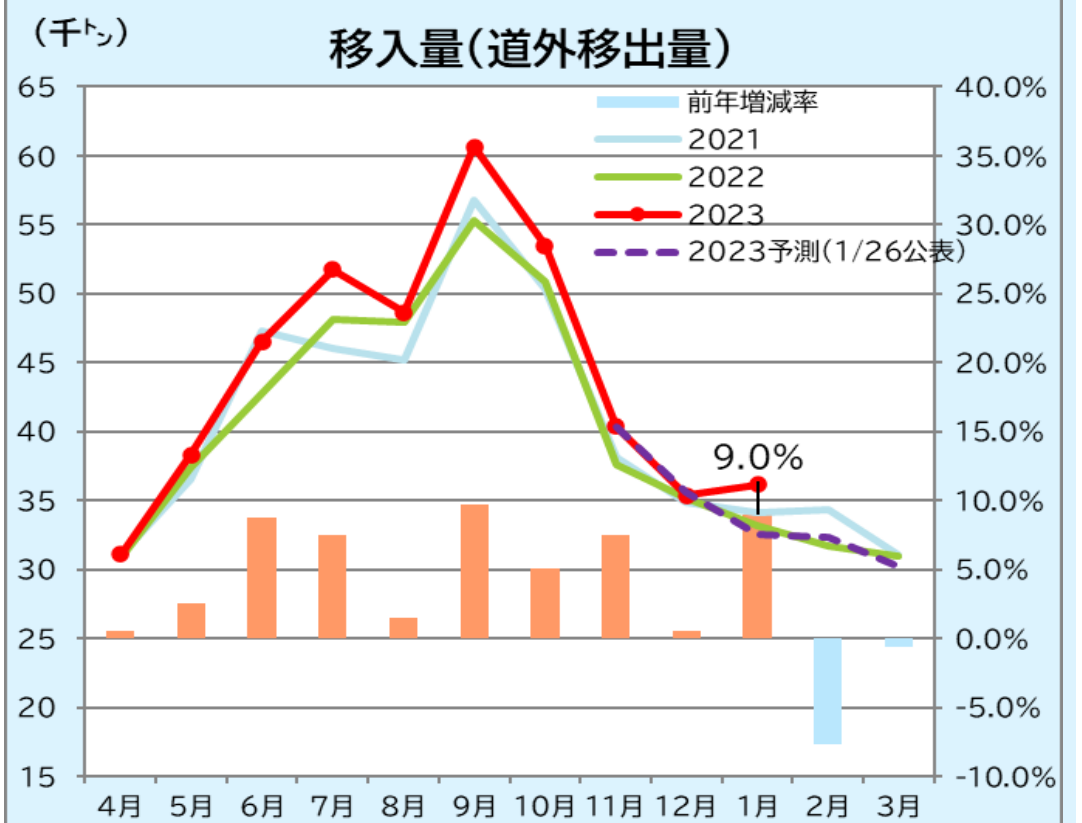
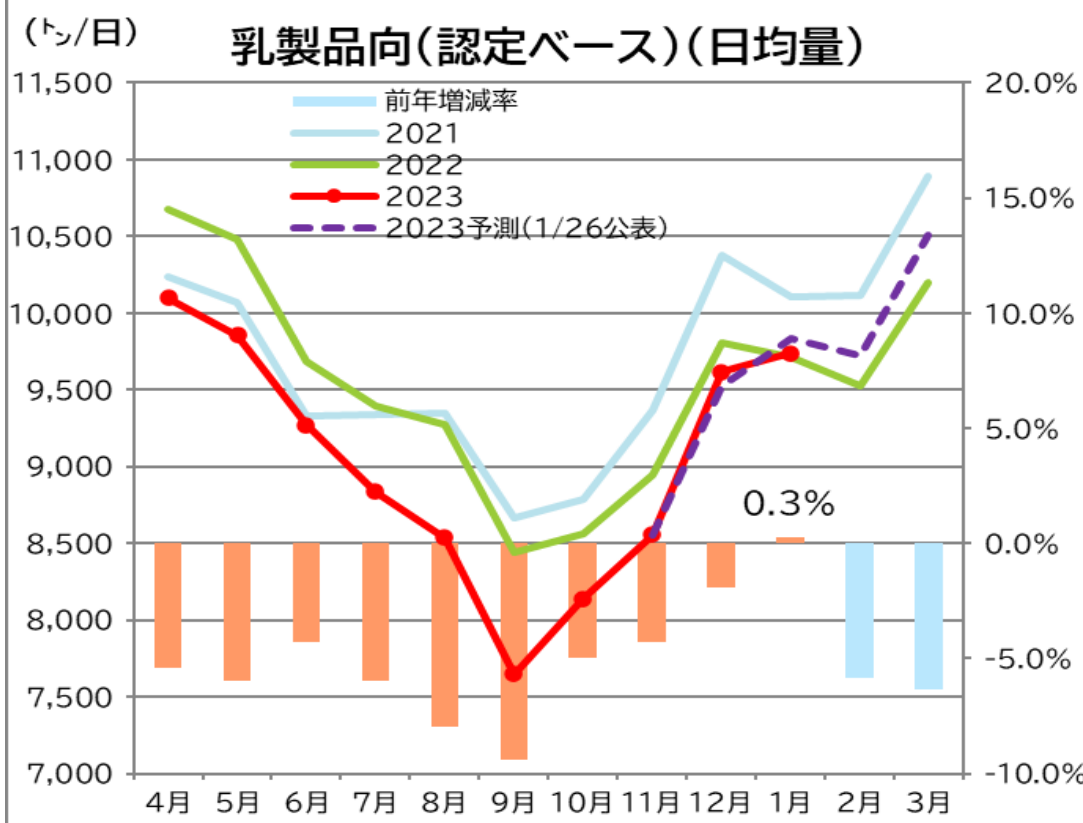
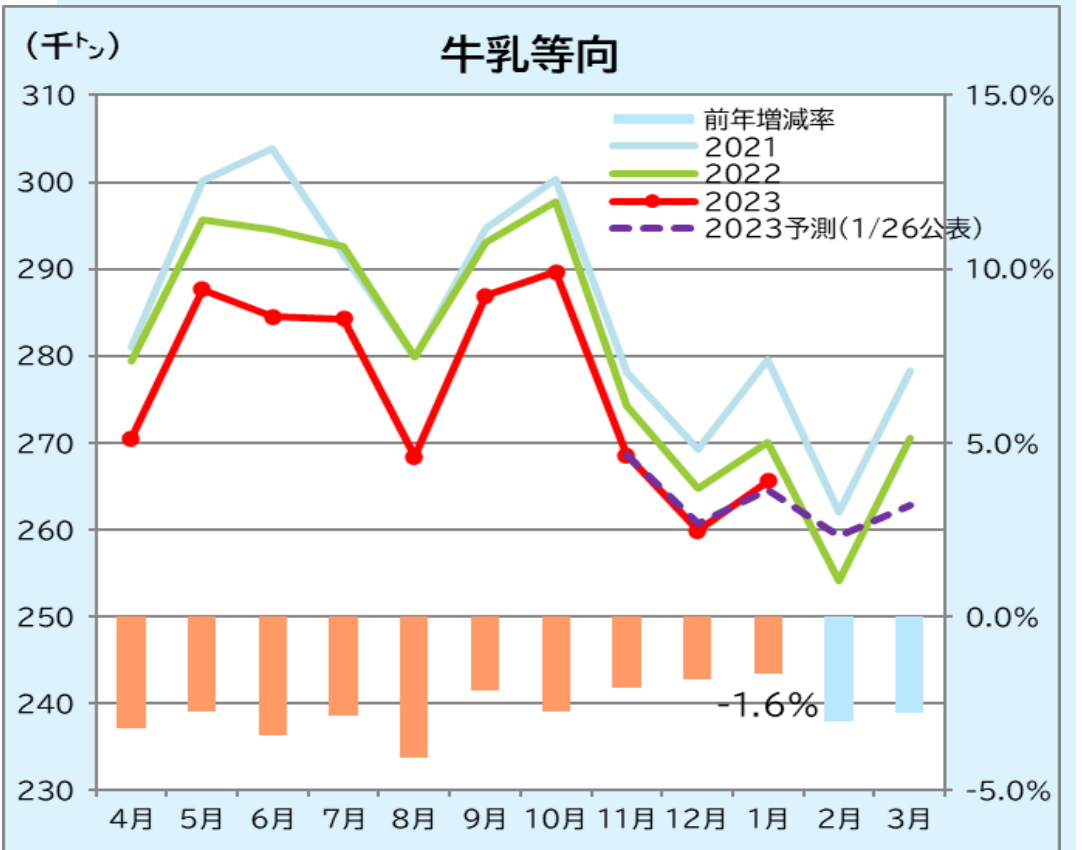
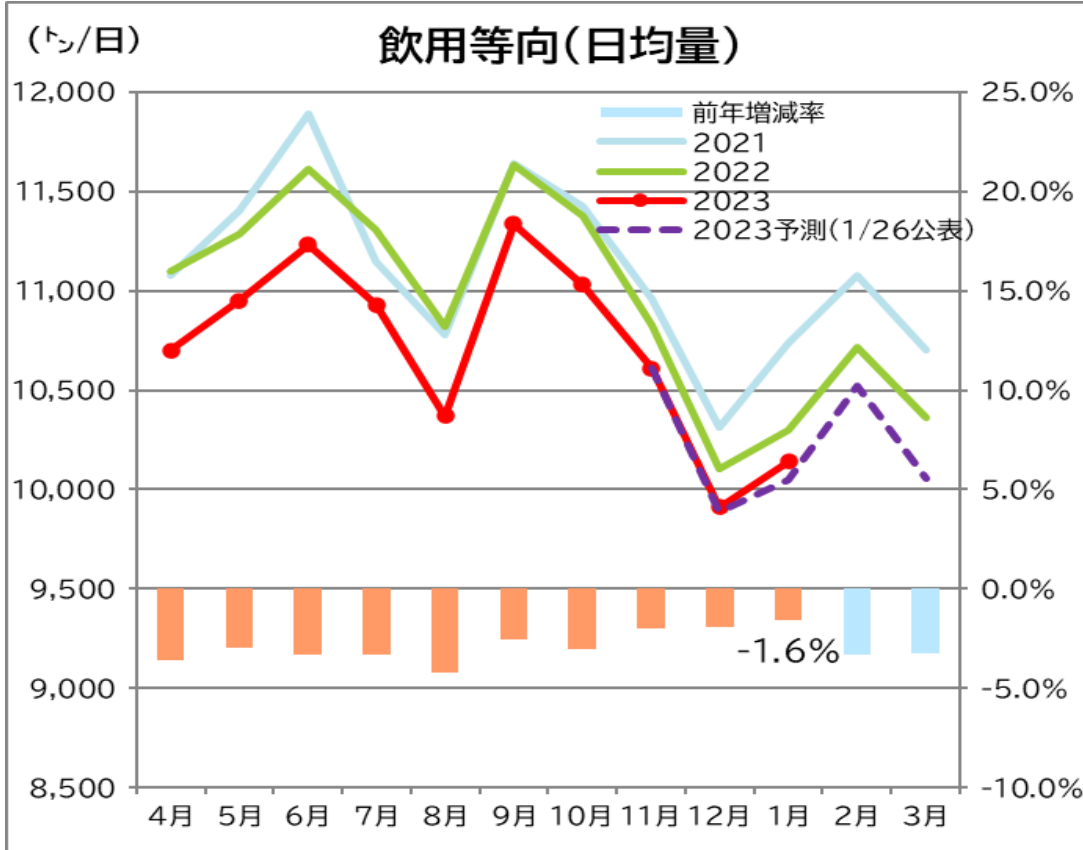
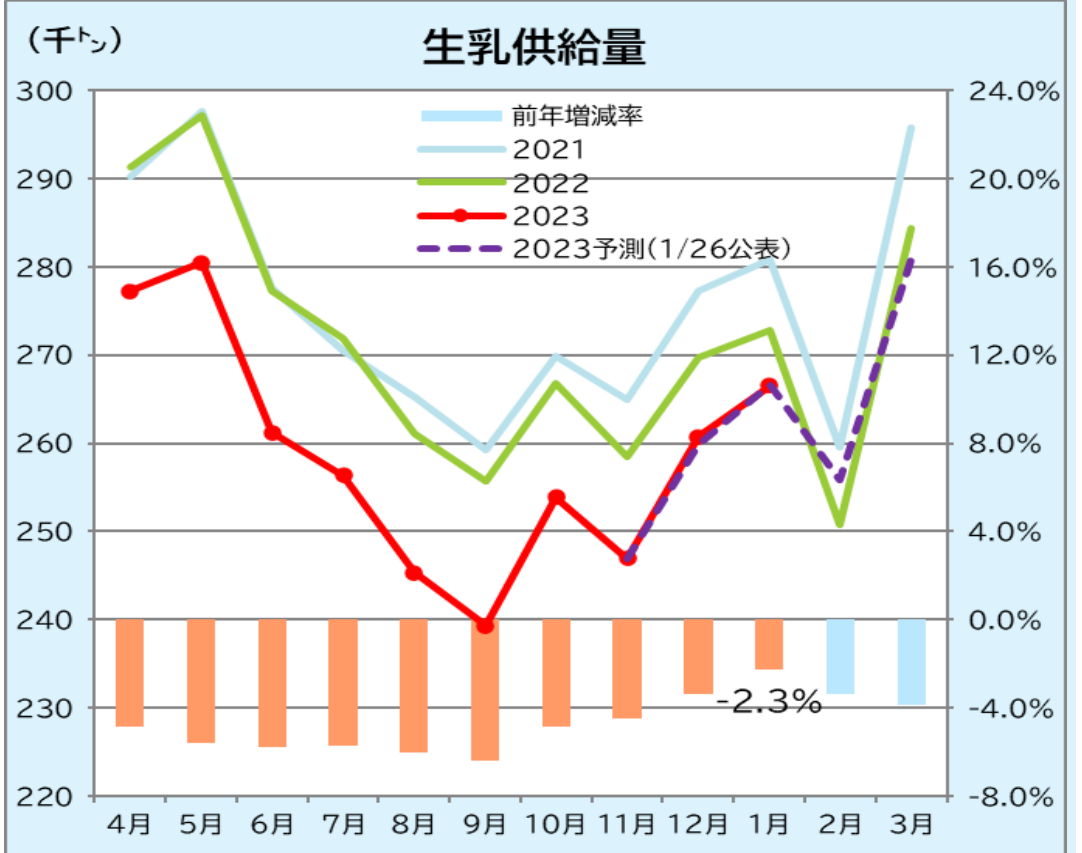
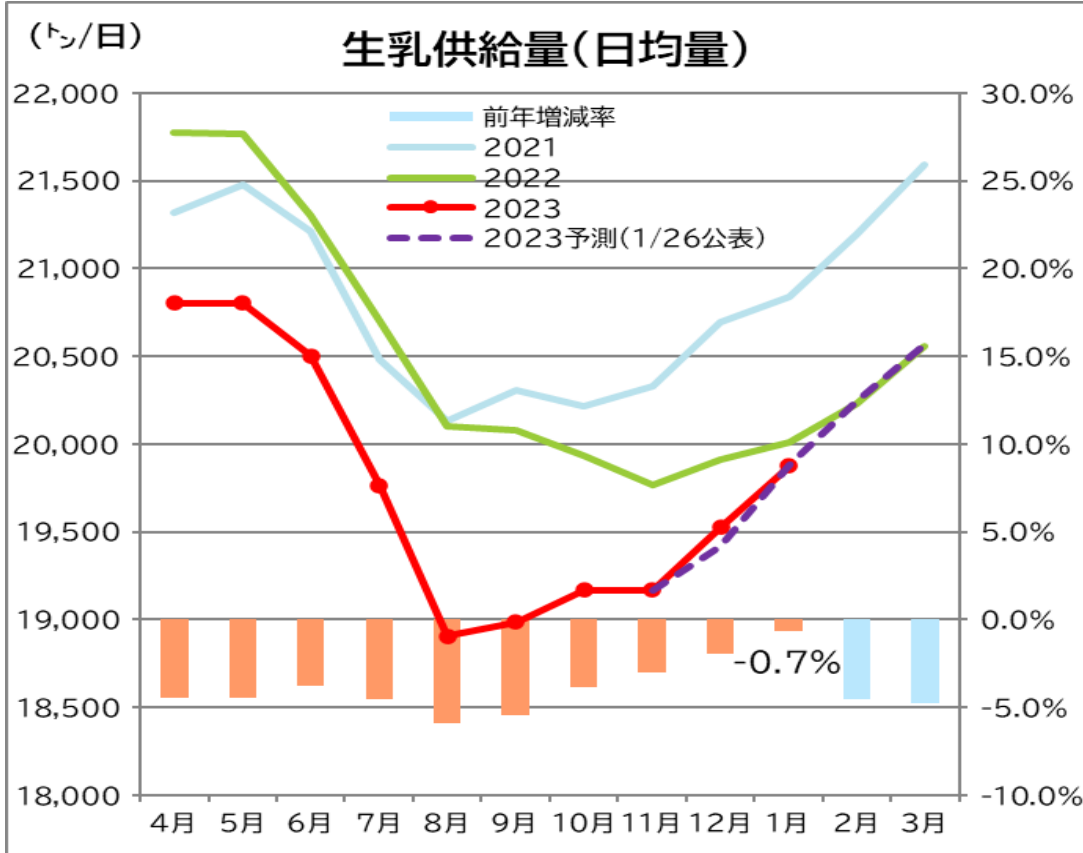


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)1月の生乳供給量は616.2千ト(前年同月比99.3%)、飲用等向314.3千ト(同98.4%)、乳製品向(認定ベース)301.8千ト(同100.3%)。
 (2)飲用等向、生乳供給量ともに前年を下回ったが、飲用等向の減少量の方が大きく、乳製品向は前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:616.3千ト)はほぼ同水準、飲用等向(予測値:311.5千ト)はやや上振れとなり、結果乳製品向(予測値:304.8千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)1月は、生乳供給量266.6千ト(前年同月比97.7%)、牛乳等向265.6千ト(同98.4%)。
 (2)北海道からの移入量については36.1千ト(同109.0%)と前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:266.7千ト)はほぼ同水準、牛乳等向(予測値:264.6千ト)はやや上振れとなったことから、北海道からの移入量(予測値:32.6千ト)はやや上振れとなった。



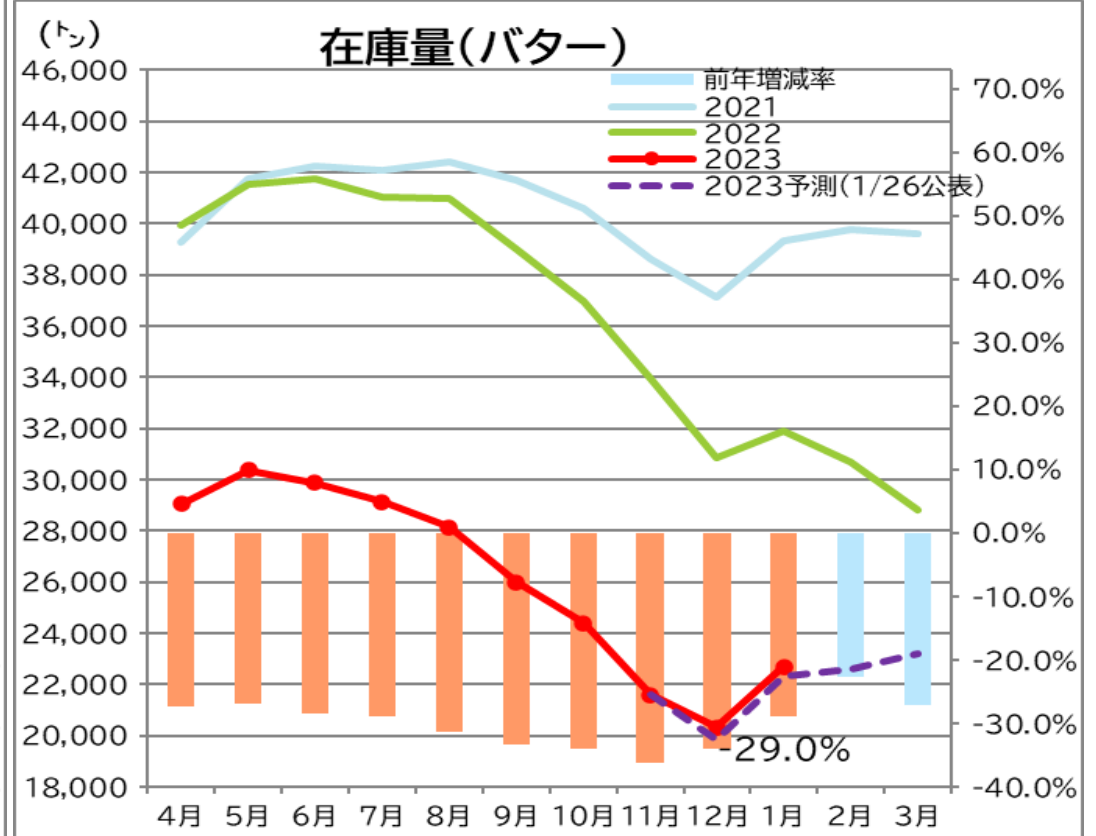
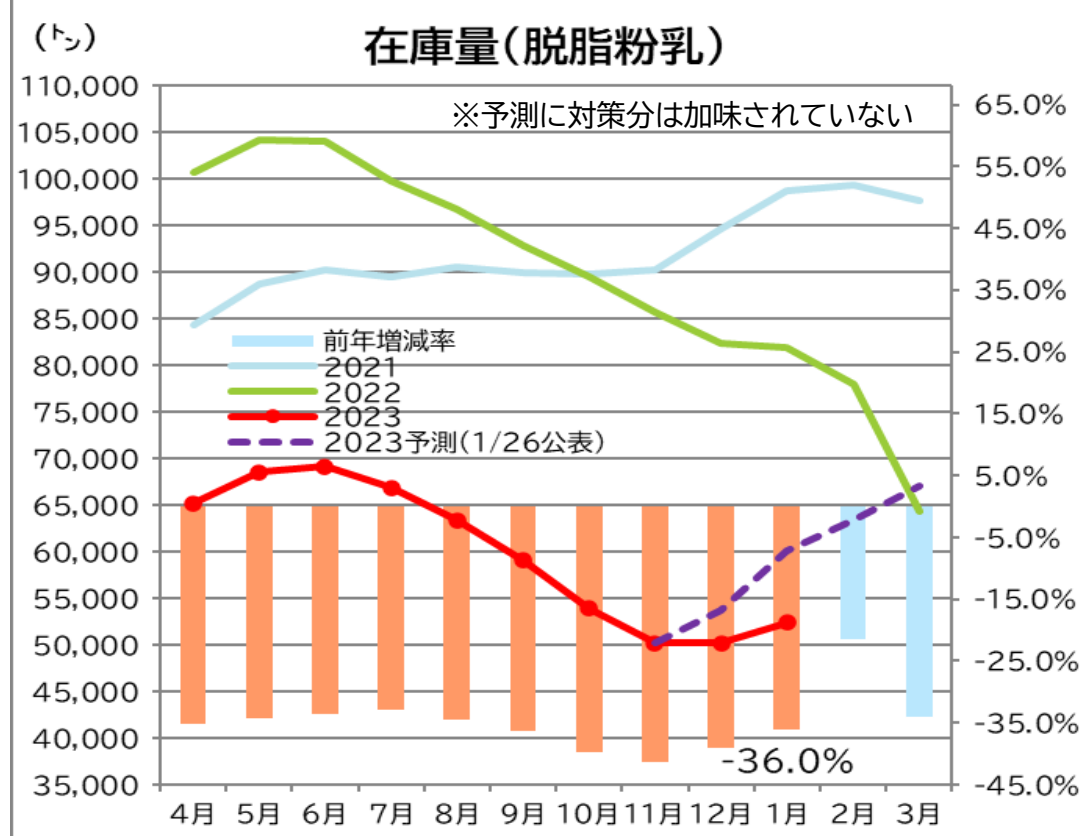
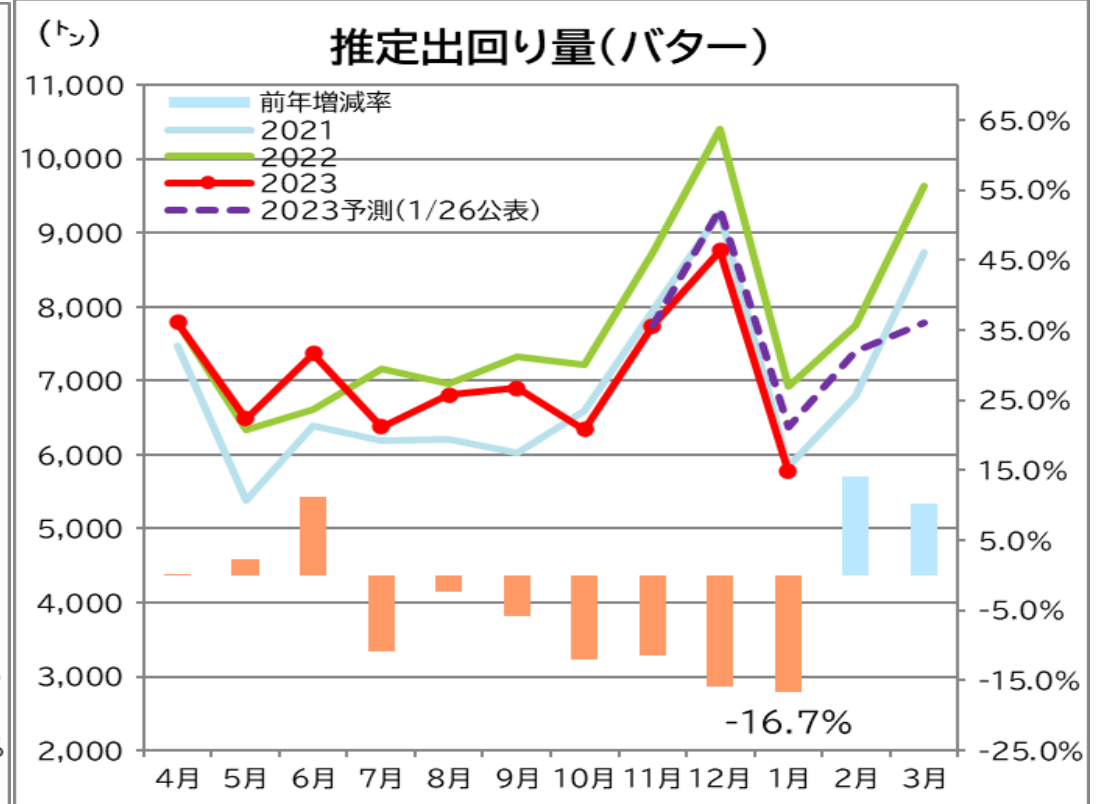
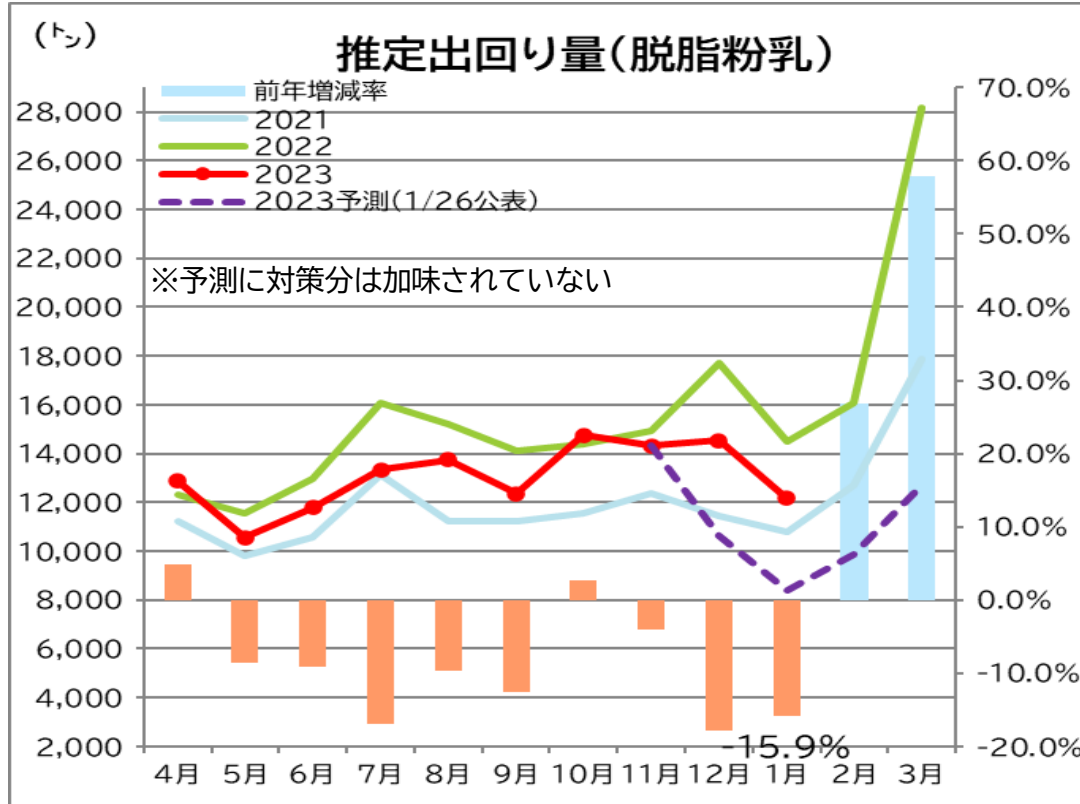
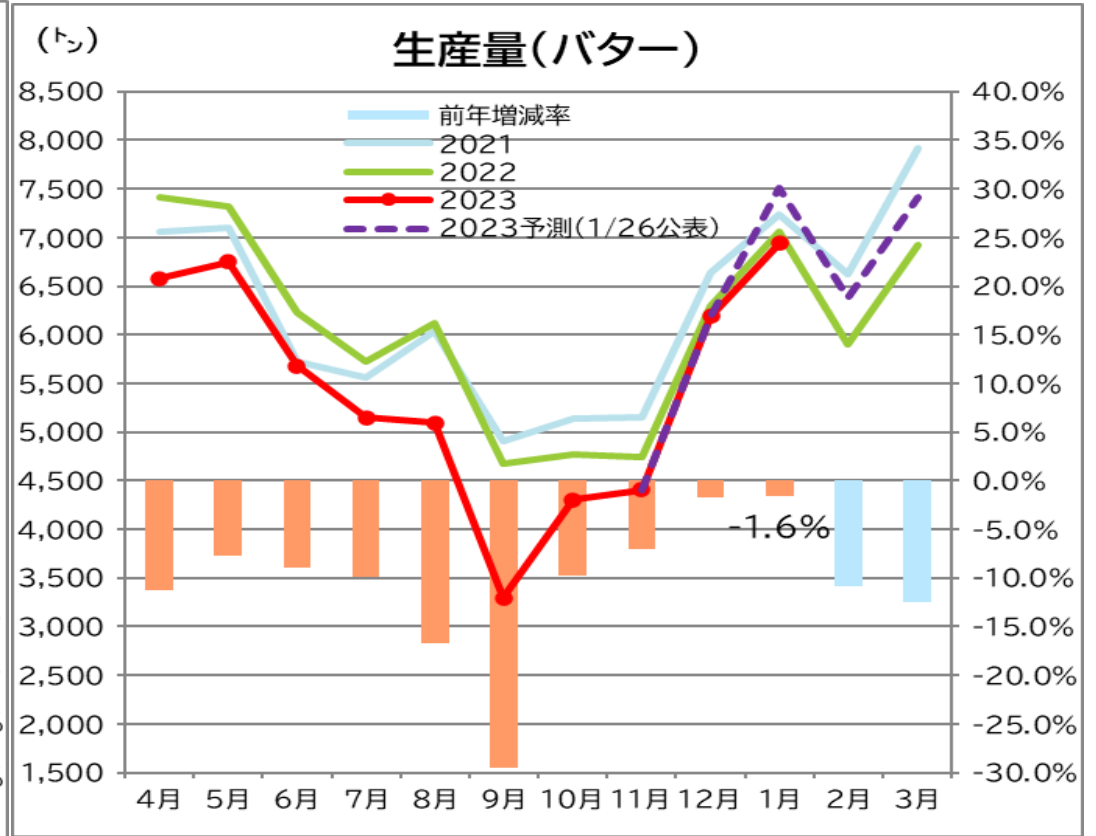
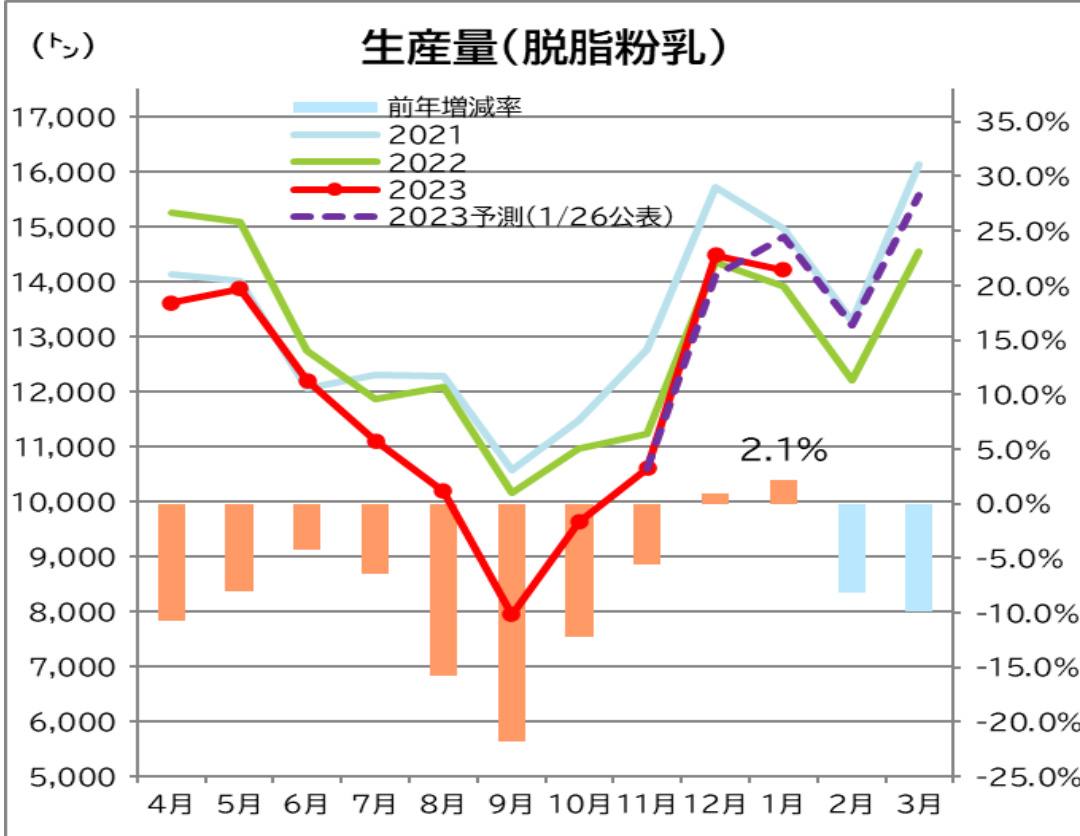
【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳について、1月の生産量は14.2千ト(前年同月比102.1%)、推定出回り量は12.2千ト(同84.1%)となった。出回り量が生産量を下回ったため、在庫量は前月から2.2千ト程度増加し、52.4千ト(同64.0%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱バ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には2018年11月以来、約5年振りに5万ト台となり、5カ月連続で維持している。

※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、1月の生産量は6.9千ト(同98.4%)、推定出回り量は5.8千ト(同83.3%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.2千ト(1月))を考慮すると生産量が出回り量を上回るため、在庫量は前月から2.4千ト程度増加し、22.7千ト(同71.0%)となった。在庫量は21カ月連続で前年を下回っている。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、冬期は飲用需要が減少、生産量が増加することにより脱バ等の仕向量は増加する。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限取り進める必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)2月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比100.7%、成分調整牛乳:同87.0%、加工乳:同103.2%、乳飲料:同101.1%。牛乳類全体:同99.8%

【参考】2022年2月比…牛乳:92.6%、成分調整牛乳:75.8%、加工乳:99.0%、乳飲料:101.2%(牛乳類トータル:92.6%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(2/26週)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.5%、成分調整牛乳:同84.5%、加工乳:同94.1%、乳飲料:同98.6%。牛乳類トータルでは同97.5%

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

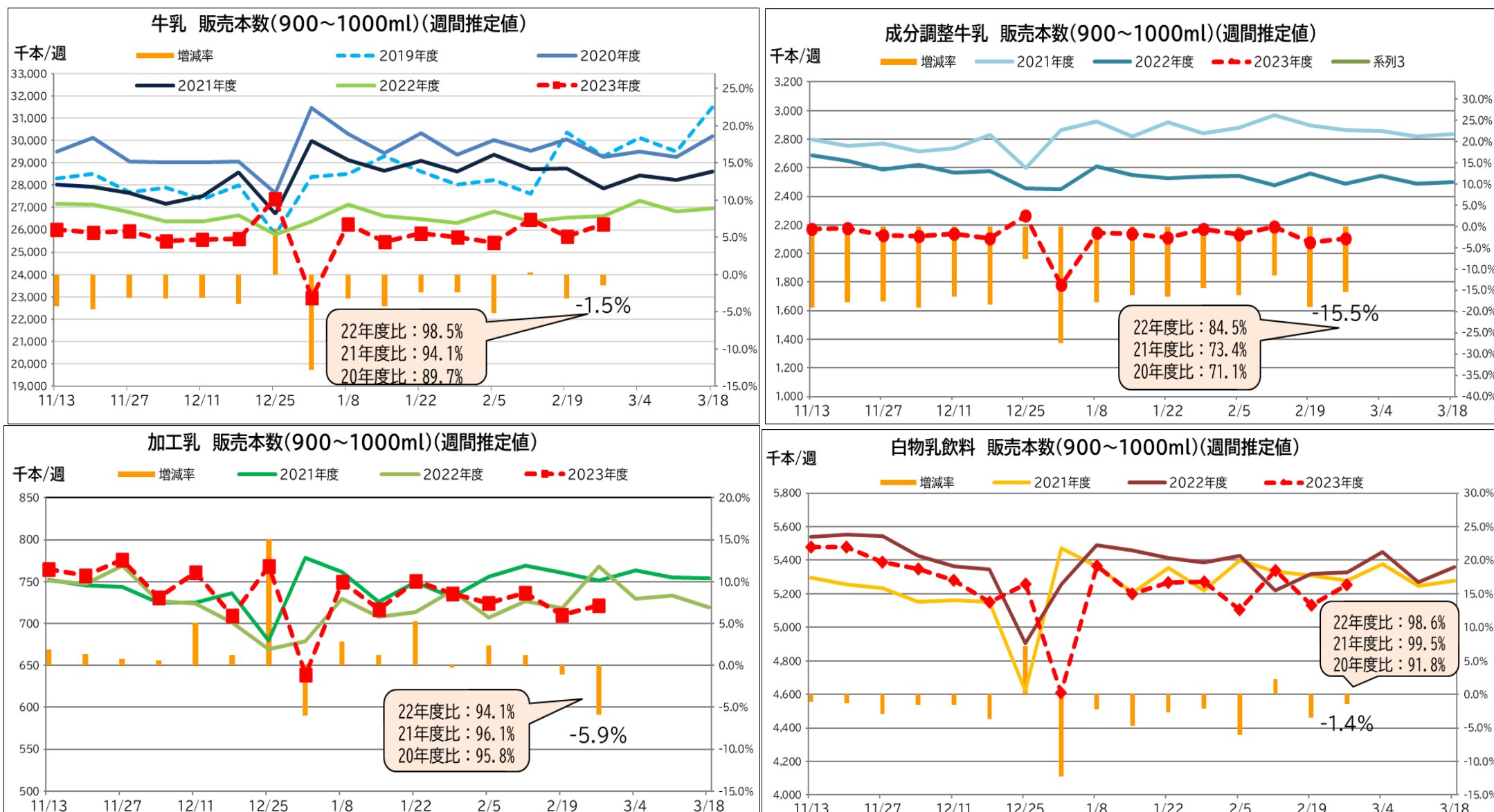
単位:千個、円

品目	区分	2023/9-	2023/10-	2023/11-	2023/12-	2024/1-	2024/2-	2024/2- 2022/10価格差	2024/2- 2023/3価格差	2024/2- 2023/7価格差
		販売個数	170,015	163,442	148,761	152,434	145,857	140,276		
トータル	販売個数前年比	97.1	95.8	96.0	96.1	95.7	99.8	33.5	18.4	16.6
	販売単価	217.1	216.6	216.7	216.9	217.0	216.6			
牛乳	販売個数	128,266	123,258	112,222	116,060	111,001	106,932			
	販売個数前年比	96.4	95.1	96.4	96.9	96.6	100.7	35.7	19.4	18.6
成分調整牛乳	販売個数	10,913	10,417	9,441	9,602	9,065	8,793			
	販売個数前年比	81.8	80.7	81.7	82.5	82.7	87.0	34.7	19.0	15.5
加工乳	販売個数	3,593	3,652	3,297	3,333	3,178	2,992			
	販売個数前年比	100.1	105.3	102.8	102.6	103.8	103.2	29.7	20.0	9.0
乳飲料	販売個数	27,243	26,115	23,801	23,439	22,613	21,559			
	販売個数前年比	108.1	106.0	100.2	97.6	96.7	101.1	24.2	13.6	9.9
	販売単価	173.7	173.5	173.6	174.3	173.5	173.7			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	1.8-	1.15-	1.22-	1.29-	2.5-	2.12-	2.19-	2.26-	24.2.26- 22.10.24 価格差	24.2.26- 23.3.20 価格差	24.2.26- 23.7.24 価格差
		販売個数	34,510	33,536	33,965	33,845	33,408	34,726	33,618	34,322	33.0	18.1
トータル	販売個数前年比	96.0	94.9	96.7	96.8	94.1	99.7	95.6	97.5			
	販売単価	217.0	216.6	216.7	216.5	216.7	216.5	216.6	216.2			
牛乳	販売個数	26,253	25,481	25,836	25,666	25,450	26,461	25,698	26,243	35.0	18.7	17.5
	販売個数前年比	96.8	95.8	97.6	97.6	94.9	100.3	96.8	98.5			
成分調整牛乳	販売個数	2,143	2,137	2,111	2,172	2,132	2,190	2,076	2,104	34.2	19.3	14.7
	販売個数前年比	82.2	83.8	83.5	85.5	83.9	88.4	81.1	84.5			
加工乳	販売個数	750	717	751	736	724	737	710	722	29.2	18.9	8.3
	販売個数前年比	102.8	101.3	105.3	99.6	102.4	101.3	98.9	94.1			
乳飲料	販売個数	5,364	5,200	5,267	5,271	5,103	5,339	5,133	5,253	23.5	13.7	9.0
	販売個数前年比	97.7	95.2	97.3	97.8	94.0	102.3	96.5	98.6			
	販売単価	173.9	173.4	173.7	173.4	174.0	173.8	173.5	173.2			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向

直近(2/26週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)前週(2/19週)との比較では全カテゴリーで増加したが、前年比では引き続き100%を下回る推移となっている。(3品目合計前年同期比:90%以上)。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

単位:千個

品目	1.8-	1.15-	1.22-	1.29-	2.5-	2.12-	2.19-	2.26-
ドリンクタイプ	↓	↓	↘	↓	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘

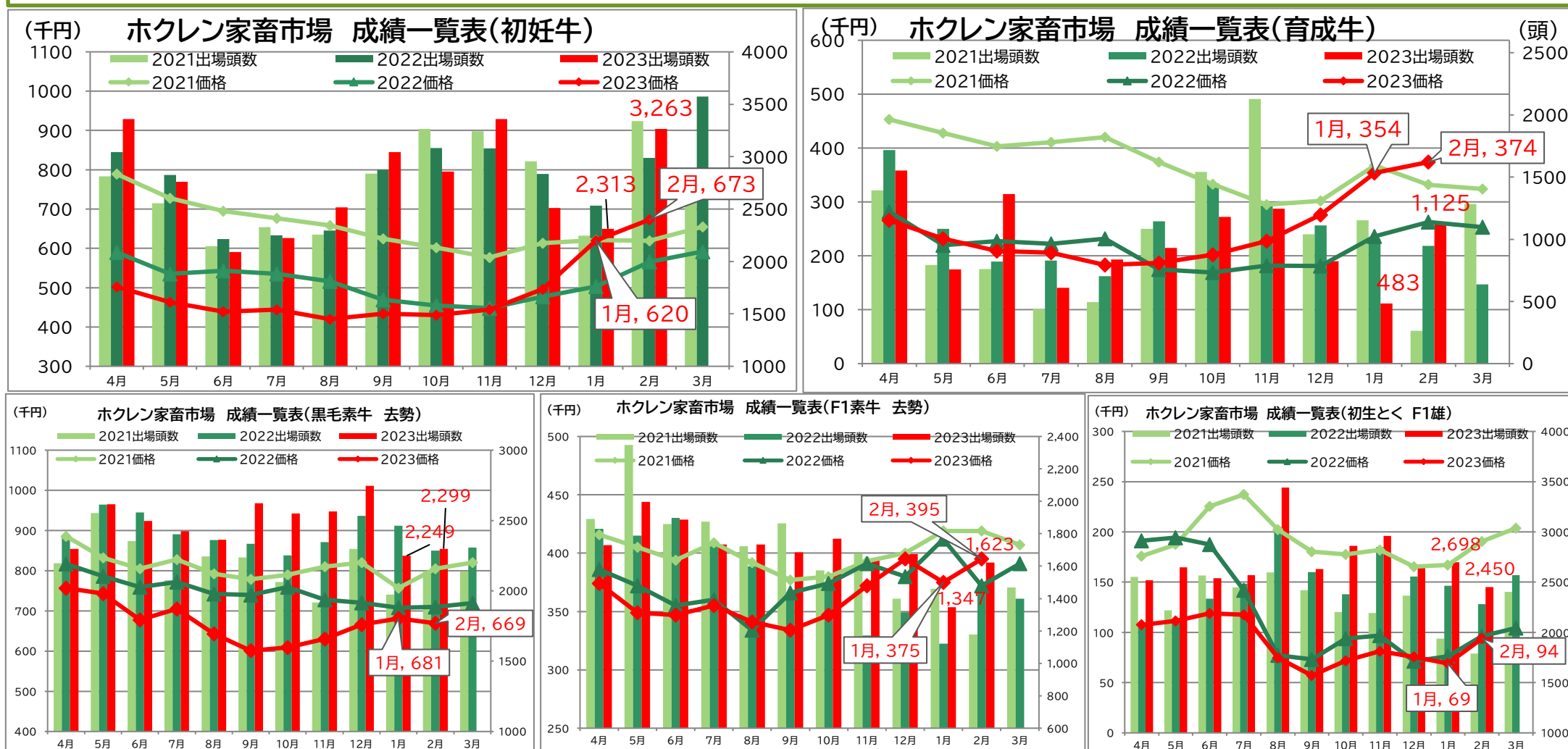
- ↓ : 前年比90%未満
- ↘ : 前年比90%以上100%未満
- ↘ : 前年比100%以上105%未満
- ↘ : 前年比105%以上110%未満
- ↑ : 前年比110%以上120%未満
- ↑ : 前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

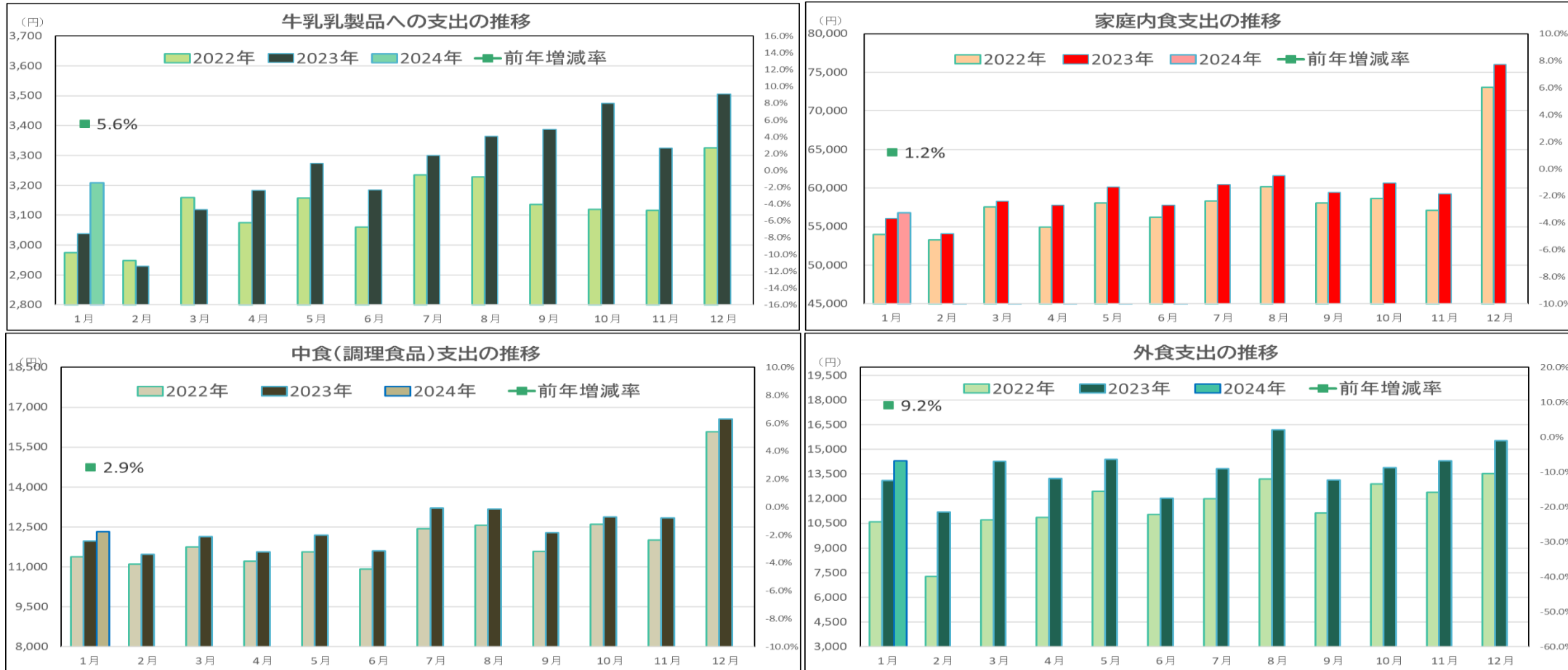
(1)2月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は673千円(前年同期比118.9%)、育成牛価格は374千円(同142.2%)、和牛素牛(去勢)価格は669千円(同94.2%)、F1初生(雄)価格は94千円(同97.8%)、F1素牛(去勢)価格は395千円(同106.2%)。初妊牛は2カ月連続で60万円台となり、育成牛についても2カ月連続で30万円台となった。F1初生(雄)は6ヶ月連続で10万円を下回った。ホル初生(雄)価格は41千円(同121.9%)となった(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同109.2%、育成牛:同118.8%、F1初生(雄):同107.4%、和牛素牛(去勢):同100.6%、F1素牛(去勢):同109.3%。

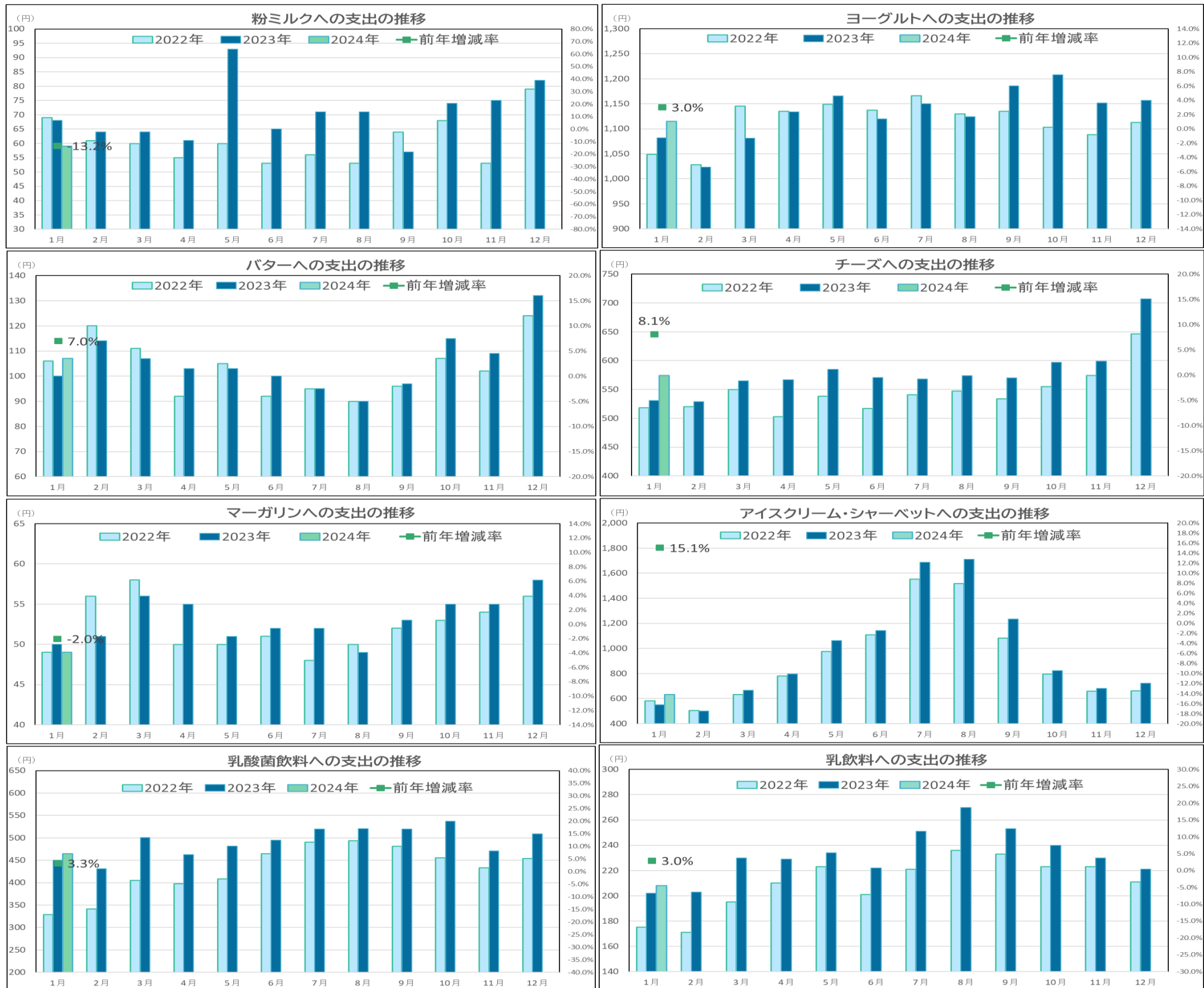


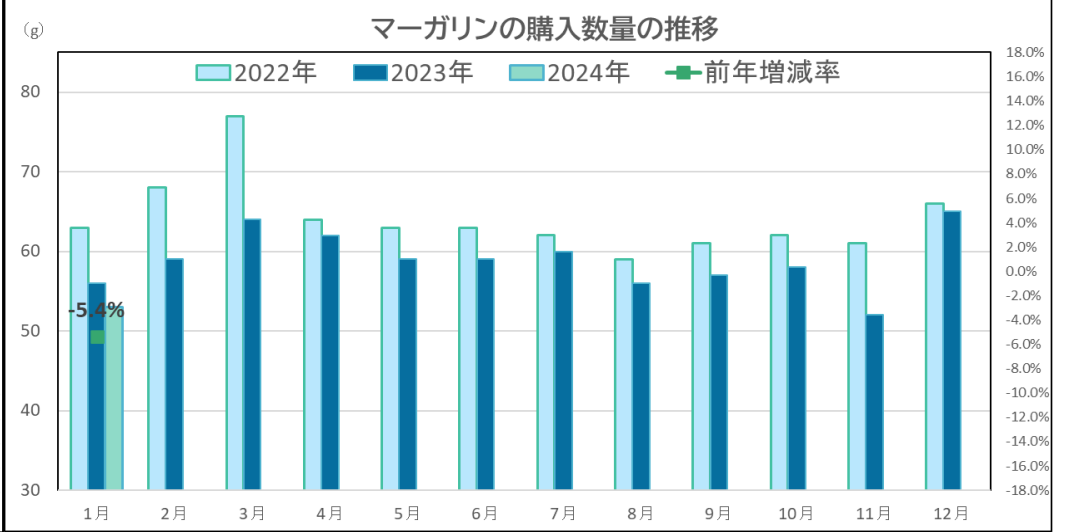
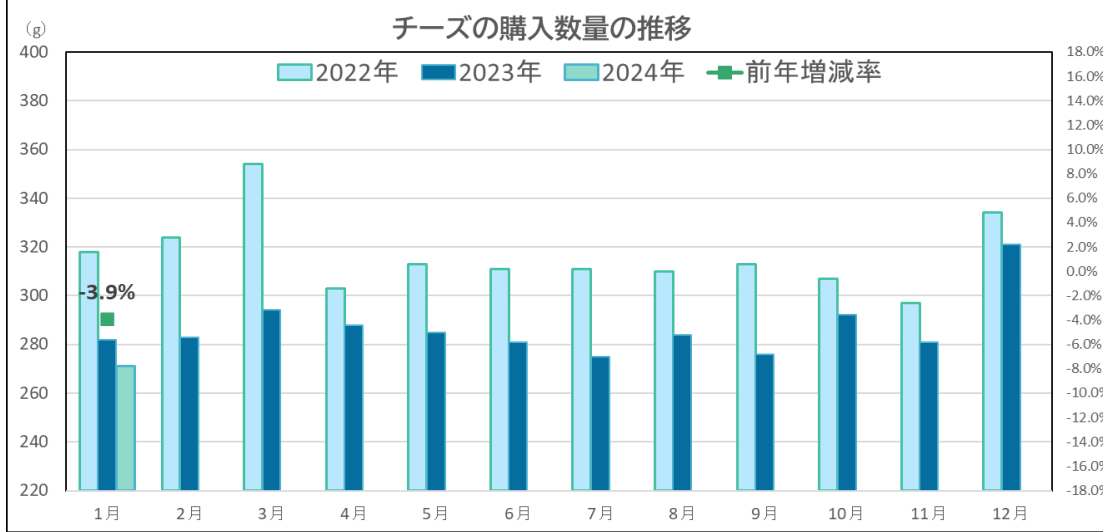
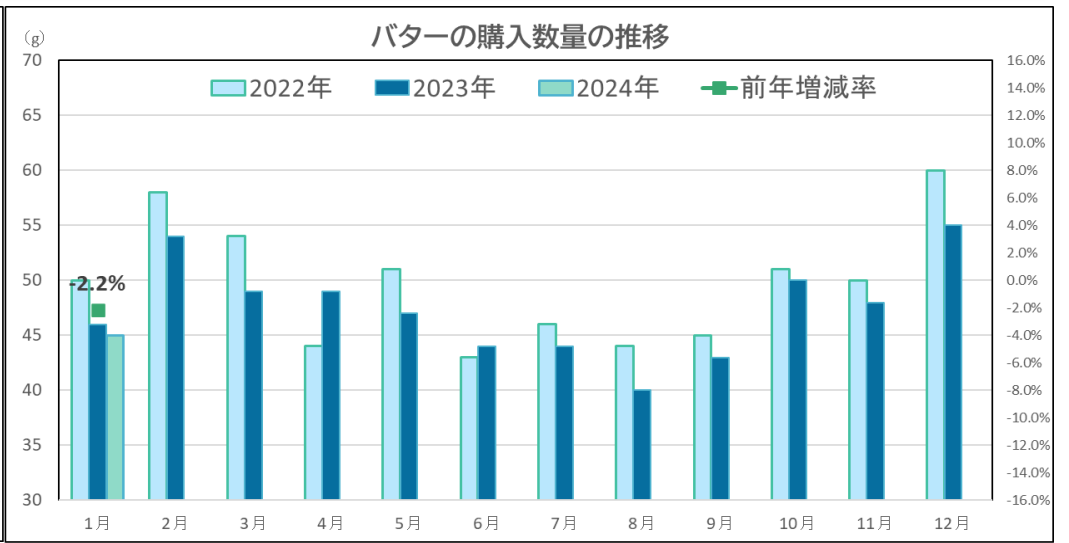
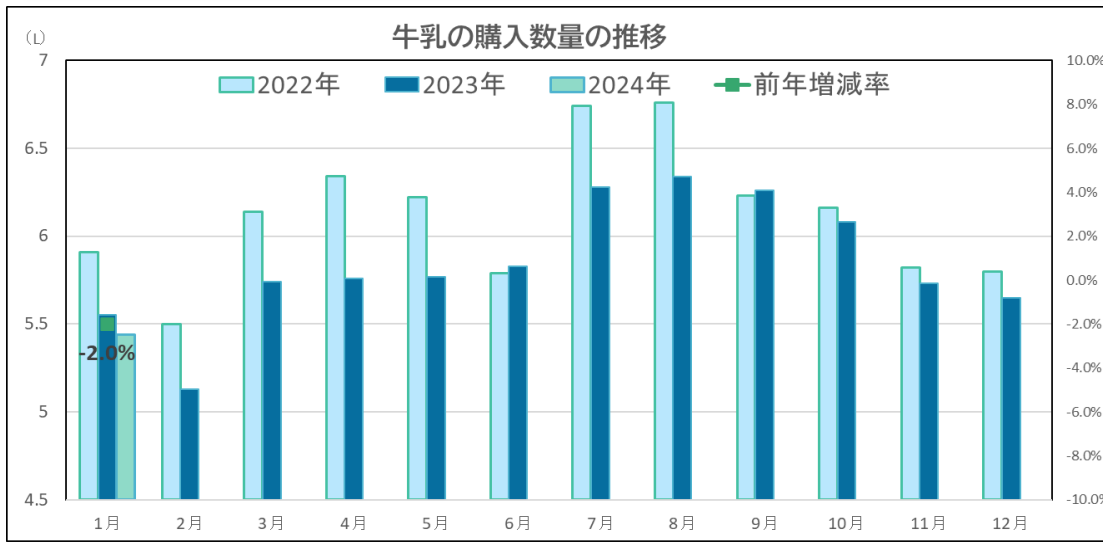
【家計支出の動向】

(1)1月の支出額前年比について、外食109.2%、中食102.9%、内食101.2%と前年を上回り、食料全体への支出額は102.8%となった。
 (2)牛乳乳製品の支出額については、前年を大きく上回った。牛乳乳製品全体の前年比は105.6%(うち牛乳107.5%、乳製品104.4%)。
 (3)なお、購入量は、牛乳98.0%(1世帯当たり5.44L)と4カ月連続で前年を下回った。バター、チーズ、マーガリンについても前年を下回る結果となった。
 ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】





【乳製品輸出価格の動向】

(1) 直近の乳製品国際相場について(3月上旬)

- ・欧州: 脱脂粉乳2,750ドル/ト、バター6,200ドル/ト中心
- ・オセアニア: 脱脂粉乳2,800ドル/ト、バター6,650ドル/ト、チェダーチーズは4,200ドル/ト中心

※出典: 米国農務省(USDA)

